

■2017年スポーツ委員会議事録

開催日：2017.06.25 10:00-16:30

開催場所：川崎市 サンピアンかわさき会議室

参加者：太田氏、牧氏、飯盛氏、竹澤氏、中口氏、佐々木氏、野上（記）

★：決定事項 アクションアイテム

■NRSペナルティの計算方式について

佐久大会での計算結果について。

ペナルティの計算方法についての議論。

ペナルティが大会側が出した結果をもとに計算している。どのように計算するか。

グループBの値を下回らないというルールから、大会側で補正が入っているペナルティの値が出ている。

その値をつかって計算するか？それとも大会側から細かい結果を出してもらって計算するか。

どのような方針でいくか。大きな大会の場合はどうなるか。現実問題として、ペナルティの追跡が難しい。

距離制限違反が25%以上の場合は、グループBの点数になる。

★「NRSランキング制度」の規定に追加。

「NRSタスクでかされるペナルティは大会主催者発表の値を採用する。」

4-1 4)として追加 以下は番号をずらす

メモ：（その結果、グループBの値を下回ることがある）

■今後のNRSの計算方式について

永く現在の方式で、続けてきていたが、問題点などはないか？

現状のままで良いのではという意見。

年間で決める方式は、優勝者が固定されないのが良いのでは。

ポイント制は？優越の差がでにくいのでそのままが良いのでは。

★現状のままで

■来年の日本選手権について

2018年の立候補がない状態

・毎年開催する必要があるか？ 質を確保する必要があるか？

・大会側の負荷はあるのか？離陸地の確保（機数の制限）

日本選手権を開催する際のメリット／デメリットについての議論

運営が大変な事が有るならば、そこを緩める必要が

・オブザーバの確保 ローカル大会の質を確保できるか

・表彰式の対応 大掛かりになってしまう

・30機未満の制限についての議論

・グランプリの開催では、枠も設ける必要がある

・競技委員長の確保

- ・大会を成立させるために、大会期日を伸ばす必要があるか
- ・主催の方へ連絡は個別に送っているが、現在立候補無し
- ・日本選手権制度2章2番に、
「日本気球連盟は、日本選手権が成立するように努力しなければならない。」
やらなかった場合、想定される問題は
 - ・連盟の努力不足
 - ・NRSで代表は出せる
 - ・無いのが状態化してしまうのでは
- ・持ち回り制にする？
→ほかの地域での開催は役員の確保の問題がある
- ・機数制限をさらに少なくするか？20機。
- ・機数制限しても、スコアリングとオブザーバは難しい。
- ・質の確保しないと、日本選手権自体の価値が下がってしまう。
- ・開催頻度を少なくしても、本質的な問題は変わらない。
- ・NRSレベルの大会が増えないと、日本選手権を開催できる大会自体が増えない
- ・NRSタスクを行う大会への参加機数が少なくなっている
- ・リミットは7月の理事会 8月の総会で決定して告知
- ・立候補6月末、7月末承認

- ・大会側のメリットは？
少なくなっている。新しい大会などではあるが。
エントリーフィーは上げられる
- ・日本選手権は、普段参加できない人に夢がある大会であって欲しい。
なので、もっと緩い感じが良いのでは。
- ・NRSのトップレベルのみの大会では無い。
その独自差を出すためには？標準規定を外す必要があるのでは。

- ・日本選手権の考え方、進め方から考える必要がある
- ・マンネリ化している。質を求めるのか。間口を広げるのか。考え方が問われている。

★今回は従来通り、主催者側へ願います（すでにお願しているが）

■国際選手権について

2018年

- ・世界選手権 オーストリア
- ・女性世界選手権 ポーランド
- ・ジュニアは立候補地が無い 5月までに立候補がなければ無い（要確認）。
（後日追記：ジュニアもポーランドに決定 2018年9月11～18日）
ジュニアの年齢制限 大会当該年27歳
その国の代表の立候補者がだれもいなければ30歳まで認める
例えば2枠のうち、1枠でも27歳がいれば、30歳まで認める
- ・2020年の世界選手権はスロベニアとハンガリーが立候補している

→スポーツ委員会からも立候補地の意見を出せる

- ・2020年の女性選手権はクロアチアが立候補

■日本選手権 役員証明について

日本気球連盟理事会役員を証明の範囲に入れて欲しい、という要望があり、それについて議論

- ・大会に選手で出るだけでなく、役員もやろう、という意図からはずれるのでは？
- ・日本気球連盟の役員、その他で参加？
- ・連盟への貢献度で役員証明を取るという意見。
- ・佐賀では、競技を出ているパイロットの役員参加の動機になっている
- ・元々の趣旨から外れるのでは。線引きが難しいのでは。
- ・理事会の役員としての貢献へは、別の形で報いる形に。

★現状の制度のまままで

■スポーツ委員会 連盟HP ページの更新

- ・古いトピックスは削除 ★飯盛氏対応
- ・スポーツコード 世界ランキング 更新 ★竹澤氏対応
- ・NRSのレイアウト変更 ★野上 対応
- ・日本ランキング 日本選手権結果一覧の更新 ★太田氏対応
- ・オブザーバ関連情報更新 ★飯盛氏対応
- ・パイバル計測器 マニュアルを載せる ★中村さんに確認 飯盛氏対応

★パイバル計測器の内容（タイプや値段など）をページ載せる

- ・オブザーバ講習会 パイバルカレンダー NRSタスクの告知（90日前）
- ・NRSの大会は公認大会カレンダーにある。

★スポーツ委員会カレンダーを作る。

- ・オブザーバ講習会
 - ・日本代表として選考がある大会（世界選手権等）の立候補締め切り
 - ・パイバル貸出予定表
 - ・日本選手権の立候補地締め切り
 - ・各種チャレンジ賞の締め切り
- スケジュールは項目の羅列で対応

★竹澤氏対応

記録飛行のページとは別に、各種チャレンジの項目をもっと上に持ってくる

★項目の作成 飯盛氏

★過去の結果まとめ 江田氏

★申請書はWord化も依頼

■パイバル計測器 貸出優先順位について

TD-4 WindBirdの2種がある。

TD-4の希望者が2か所あった場合、NRSを優先させるか。抽選にするか。早い順か。

★NRS登録費用のパイロットへのフィードバックという意味で、

TD-4は日本選手権・NRS・公認大会・非公認大会の順で優先する

■オフィシャルメンバーのFAIライセンスについて

- ・ カテゴリー1の大会のキーオフィシャル FAIスポーツライセンスを持ってほしい。
- ・ ディレクター、チーフクラスも持ってほしい。

■NRSタスクの規定についての共有

- ・ 日本選手権の役員は連盟会員である必要があるか？
- ・ NRSタスクの規定にある。主な役員は連盟の会員であること。
2-2-4 a)にある。

■AXMERルールの改定情報(2017)についての共有

- ・ エントリー機数の半数が飛ばなかったらキャンセルという規定について

8.2.3 Tasks are not valid if less than 50% of the competitors take off.

今後変更予定

- ・ ロガーの取り扱いについての議論の共有（パイロットが見られる手元にあるべき？）

(・参考として2017年世界選手権プレ大会ルールにおいて（後日）記載確認追記

国対抗はすでにルールに入っていました。(1.2.2)

採点方法は、最小2選手の総合スコア平均 (14.9)

NACが表彰されます。(メダルあり)

この件は女性、ジュニアにも適応されるので、各当該大会の参加者に案内する必要があると思います。

急ぎませんが航空協会にも一言あっていいかも。

有効フライト

5.9.1 にもう今年(2017年)から採用されています

制限距離も 8.8.2 に採用されています。)

■学生係について

担当が年代が離れて、離れ気味になっている。

- ・ スポーツ委員会のメンバーが、学生選手権に参加するという事は続けるか？
- ・ これからも、つづけた方がよい。
- ・ 見に行くだけでもよいので、参加すべき。
- ・ 学生選手権は日本の誇るべき実績。日本は学生だけでも20年続けている。
- ・ 何校、何グループ参加したかをまとめている。
- ・ スポーツ委員会ではない、連盟メンバーを送っても良いのでは。

- ・パイバル計測器の講習会も毎年、開催している。
- ・必ず誰かしら参加できるように、対応する

★スポーツ委員会のメンバーもしくは代理の者を参加させる
学生総会に立ち会う

■次回スポーツ委員会の開催について

- ・来年6月開催予定 必要に応じてその前に開催 なるべく大会派遣などを優先

以上